FUJITSU

時代の変化とともに変わるPCの選定ポイント

テレワークで鮮明になったPC選びの変化点、これから求められるPCの形とは

今までのPC選びのポイントは「業務に耐え得るPCを、いかに安く調達するか」だった。テレワークが普及しつつある今、そうした“伝統的な”考え方に変化の兆しが見えてきた。

テレワークが浸透しつつある今、業務PCに求められる要件が変わろうとしている。しかし、市場にあまたの法人向けPCがある中で、テレワークに最適なモデルを選ぶにはどのような機能や特長に着目すればいいのか。

富士通が開催したオンラインセミナーで、これからのテレワークに必須となるPCの要件や、PCライフサイクル管理を効率化する仕組み、富士通でのテレワークPCの活用例などが紹介された。本稿では、講演の模様を詳しくレポートする。

テレワークにより今まで“見えなかった”PCの諸問題が鮮明に

講演の第1部「テレワークに最適なPC環境を徹底解説 ～テレワーク用PCに求められる『使いやすさ』とは～」では、富士通の丸子正道氏（国内ビジネス推進統括部　プロモーション推進部　部長）が、これからの働き方を見据えたPC選びについて、富士通のPCを紹介しながら解説した。

まず、丸子氏は「お客さまから次のような問い合わせが増えています」と切り出し、同社に寄せられた声を紹介した。

社外からでもオフィスと同様にセキュアな環境で業務を進めたい

持ち運びやすく、作業しやすいPCが欲しい

「こうした要望に応えるために、当社でもモバイルPCやタブレット端末の改良を重ね、テレワークに最適な環境を整備できるように取り組みを進めています」（丸子氏）

丸子氏自身がテレワークを進める中で、オフィス主体の勤務では感じなかった課題に気付いたという。例えば、以下のような、PCを持ち運んで移動する時や、自宅や外出先での作業時などだ。

移動時

- PCが重く、分厚くてバッグに入れにくい
- バッテリーの消耗が早い
- のぞき見や紛失による情報漏えいが心配

自宅、外出先での作業時

- 画面が小さい
- キーボードが打ちにくい
- 周辺機器をつなぐUSBポートが足りない
- Web会議がやりにくい

丸子氏は、こうしたPC周りの諸問題に対する解決策として富士通のノートPCがある言い、次のようにコメントする。

「富士通では、テレワーク時の使いやすさを徹底して追求しました。持ち運びたくなる軽さと薄さの実現、安心感をもたらす堅牢（けんろう）な設計、長時間駆動のバッテリー、そしてSIM内蔵モデルや、生体認証、情報漏えい対策機能も提供しています。また、オフィスで利用する場合でも、大画面で快適な打ち心地を実現したキーボードの搭載やポートリプリケータによる拡張性の高さ、有線LANでの安定した通信の確保などにより、使いやすさを実現しています」（丸子氏）

テレワークPC選びで無視できない軽量さと堅牢性

富士通が提供するテレワークPCの最大の特長は、気軽に持ち運べる軽さと、小ぶりなバッグでも入れやすい薄さを実現していることだ。テレワーク用のモバイルPCには、主に以下の3つのモデルがある。

軽さと薄さを追求したU9シリーズの3種のモデル

- 「LIFEBOOK U9311」（ファットクライアントモデル）
- 「LIFEBOOK U9311X」（2 in 1モデル）
- 「FUTRO U9311M」（シンクライアントモデル）

丸子氏は「テレワークPCとして徹底的に『使いやすさ』にこだわって改良を重ね、以下の機能を実現した」と言う。

- 約738グラム～の軽さと、約15.5ミリ～の薄さ
- 約9.5時間～の駆動時間（大容量バッテリーモデルであれば、約2倍の駆動時間を実現）
- 全面加圧200kgf、一点加圧35kgfの耐久性（満員電車などにてカバンの中で押しつぶされるといった心配からの解放）
- マルチキャリア対応のSIM内蔵モデルを用意
- 19ミリのフルキーピッチ、1.5ミリのキーストロークと、打ちやすさを重視したキーボードを実装
- インタフェースは4つのUSBポートの他、ケーブル1本で周辺機器を接続できるポートリプリケータも利用可能
- 有線LANでの安定した通信の確保
- 快適なWeb会議を実現するスピーカー設計とマイク配置

また、テレワークで懸念されるセキュリティリスクに対しては以下の3点により強固なエンドポイント対策を実現する。

- ウイルス・マルウェア対策の強化
- 生体認証による本人認証の強化
- データ保護の強化

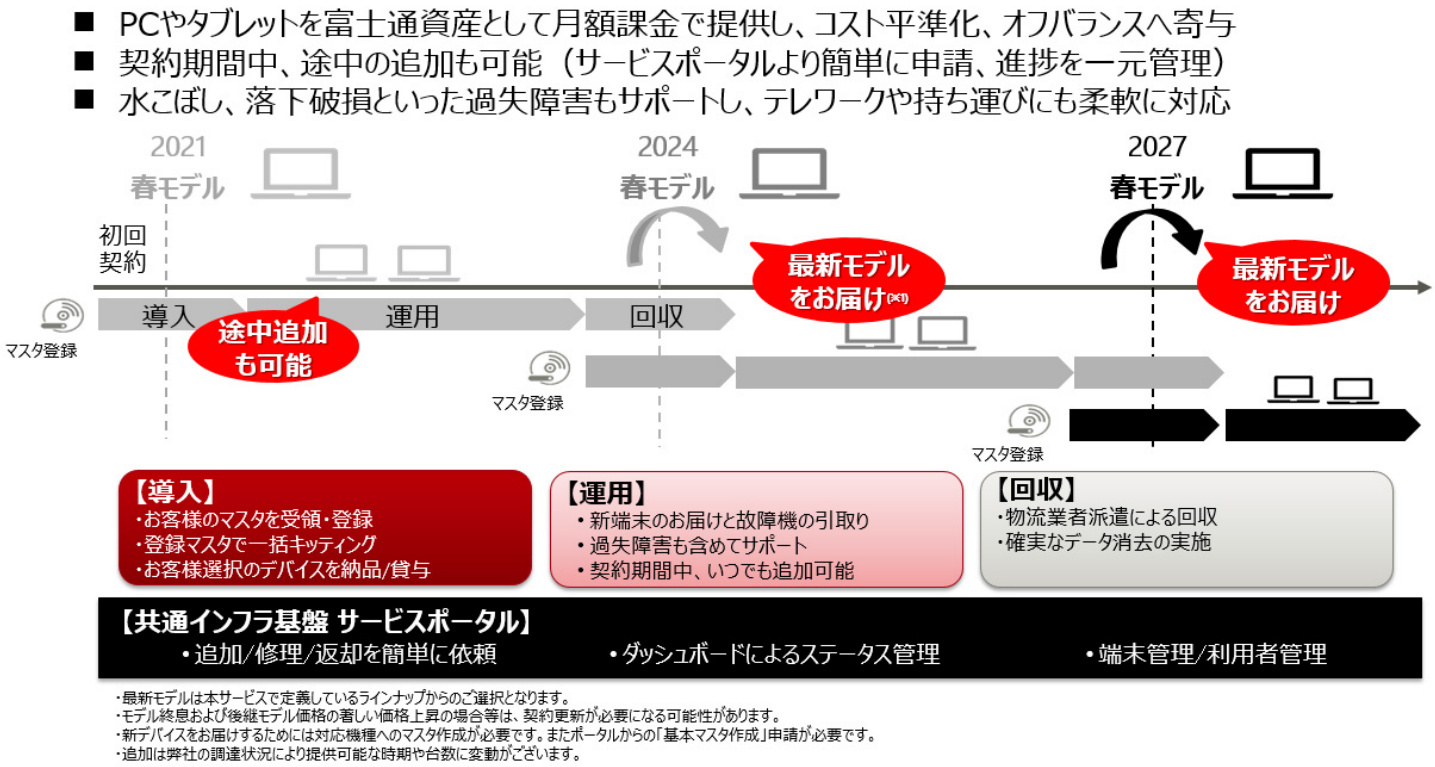
富士通独自の新開発「Endpoint Management Chip」を標準装備し、BIOSへの攻撃や異常を素早く検知、修復する。統合管理ソフト「AuthConductor Client」を使って、二要素認証や生体認証による本人確認と不正アクセス防止を実現する。データ保護には、リモート消去などを提供する「CLEARSURE」や、情報漏えい対策ソフト「Portshutter Premium」を提供している。

富士通流PCのサブスクで
みずほ銀行の店舗業務のデジタル化を支援

PC本体の提供だけでなく、セキュリティや運用管理を含めたサービスを提供できることも富士通の強みだ。

第2部「PCライフサイクル管理を革新するマネージドデバイスサービスのご紹介」では、富士通の相原亮太氏（マネージドインフラサービス事業本部　エッジサービス事業部　エッジサービス部部長）が、ライフサイクル管理の重要性と、月額サブスクリプション型サービスについて語った。

相原氏はまず、テレワークの普及で経営層や情報システム部門、利用部門のそれぞれで異なる課題があると指摘し、次のよう



マネージドデバイスサービスの概要

に現状を説明した。

「経営の観点では、コロナ禍で売り上げが減少する中で、さらなるコスト削減とワークシフトへの対応が課題となっています。情報システム部門は、持ち出しPCの管理や社外からのネットワークアクセスの対応で作業負荷が高まっています。利用部門でも、デバイスの故障によって業務が停止するなどのトラブルが多発しています」（相原氏）

こうした課題をまとめて解決するのが、デバイスと運用管理をセットで提供する富士通の月額サブスクリプション型サービス「マネージドデバイスサービス」（MDS）だ。サービスポータルから申請することで、契約期間中でのデバイスの追加も可能。水没や落下破損といったユーザーの過失による障害もサポートする。

相原氏はMDSによって受けられる利点について、「お客さまには6つのメリットを提供します」と言い、次のポイントを挙げた。

- コストの平準化：大きな初期投資が不要
- 最新性：同一契約内であれば、最新機種への乗り換えが可能
- 保守性：通常障害やお客さまの過失による障害もサポート
- 即時性：PCが届いたら即業務遂行が可能
- 安全性：返却の際は富士通でPCのデータを確実に消去
- デジタル性：サービスポータルで簡単にデバイスを追加、修理申請が可能

みずほ銀行は2020年10月にMDSを採用して、全国の店舗に3000台のタブレットを配備した。顧客が直接タブレットを操作できるようにすることで、営業店の事務手続きにおいて、印鑑レス、通帳レス、ペーパーレスといった店舗業務のデジタル化を実現した。

PC＋仮想デスクトップサービス「V-DaaS」でよりセキュアなテレワーク環境の実現を

本イベント最後のセッションとなる第3部は「『ニュー・ノーマル』対応で求められるノートPCとは 富士通社員のPCの利用シーン」とし、富士通の木村正平氏（Japanリージョン フロント支援統括部）が、富士通社員におけるテレワークPCのユースケースを紹介した。

富士通は「Work Life Shift」を掲げ、以下を3本柱として、テレワークをはじめとした新しい働き方を実践している。

- 最適な働き方を実現する「Smart Working」
- オフィスの在り方を見直す「Borderless Office」
- 社内カルチャーを変革する「Culture Change」

Smart Working

従来のようなオフィスに出勤することを前提とした勤務制度をあらため、時間や場所をフレキシブルに活用できるように、手当や福利厚生、IT環境を全面的に見直す取り組み。

Work Life Shiftの概要

Borderless Office

事務所やサテライトオフィス、自宅など、業務の目的に合わせて働く場所を自由に選択できる勤務形態へシフトし、就労環境を整備する取り組み。オフィス面積は、ハブオフィスとサテライトオフィスを合わせて現状の50%程度に抑え、快適で創造性のあるオフィス環境を構築。

Culture Change

従業員への役割や期待の共有と適切な評価、心身の健康面のサポートなどにより、従業員の高い自律性とピープルマネジメント改革を推進する取り組み。

富士通は現在、社内サテライトオフィスを全国23拠点に有し、6事業者（2021年4月時点）と契約している。木村氏自身も、自宅とこれらのオフィスを行き来して仕事をこなしているという。

「持ち運びがしやすい軽くて頑丈なPCとして、モバイルシンクライアントを標準採用しています。軽さにこだわるエンジニアリングに共感し、プライベートでも軽量PCの『FMV LIFEBOOK UH-X/E3』を利用しています」（木村氏）

また、こうした働き方においてもセキュアな業務環境を実現する、富士通の仮想デスクトップサービス「V-DaaS」にも触れた。

仮想デスクトップサービスには、大きく分けて以下の4つの特長がある

- データセンターでの運用により、高い事業継続性を確保
- いつでもどこでもつながる利便性
- PCにデータを残さない安全性
- 一元管理による運用管理の簡素化

また、業務効率や生産性の向上、セキュアなテレワーク環境の提供や柔軟なワークスタイルの確立にも貢献する。こうした利点を持つ仮想デスクトップサービスと、第2部で紹介したPCのサブスクリプションサービスを組み合わせ、月額課金で利用することも可能だ。

富士通は実践で得たノウハウを基に、顧客企業が快適で安全なテレワーク環境を実現できるよう、幅広いサービスの提供とともに尽力する。自社だけでは解決できないテレワークの問題があれば、一度同社に相談してみてはいかがだろうか。

※この冊子は、TechTargetジャパン（https://techtarget.itmedia.co.jp/）に2021年6月に掲載されたコンテンツを再構成したものです。
https://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/2105/18/news04.html

Copyright© ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

お問い合わせ先

〔購入相談窓口〕 通話料無料　0120-959-242

受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日、当社指定の休業日を除く）

富士通株式会社　〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

※富士通パートナー及び弊社担当営業から購入を希望されるお客様は、直接担当者へお問い合わせください。

Copyright 2021 FUJITSU LIMITED